

東京女子高等師範學校長式辭

畏くも 皇后陛下深く御心を教育の事に注がせ給ひ本日開校五十年記念式を擧ぐるに當り本校に 行啓あらせられ優渥なる令旨を賜ふ 本校の光榮何を以てか之に加へん 願れば明治八年本月本日

昭憲皇太后の行啓を仰ぎて開校の典を擧げしより常に皇室の優恩を拜し今又特に此の光榮を辱うす感激洵に措く所を知らず 抑も本校沿革の概要を繹ぬるに明治初年學制頒布せられてより當局は廣く世局の進運に鑑み女子教育の忽にすべからざるを察し明治七年地を此所に相して始めて東京女子師範學校を設立せり是れ實に本校の起源なり忝くも 昭憲皇太后之を嘉し給ひ翌年經營成て開校の式を行ふや即ち臨蒞あらせられて深く他日の効果を庶幾し給へり 女子教育の源泉爰に定り本校の基礎之に依て確立す爾來年と共に施設を加へて明治九年附屬幼稚園を起し後二年にして附屬小學校を設け更に四年にして附屬高等女學校を置きしより學制の釐革と共に或は本校を東京師範學校女子部となし或は更に高等師範學校女子部と呼び後分離して女子高等師範學校となし遂に明治四十一年を以て東京女子高等師範學校と稱するに至る 而して本校の創規に當ては小學師範科を置く事多年なりしが制度の改善に伴うて高等師範科を設けしより女子師範教育及高等女學校の教育に従事するものを養成し兼て普通教育及幼兒保育の方法を研究するを目的とし明治三十年始めて學科を文科と理科とに分ち次て技藝科を加へて後に之を家事科

と改め更らに幾多の科を設けて以て今日に及べり 而して別に第六臨時教員養成所の本校内に置かるゝ事茲に十有九年に達せり 組織の變遷斯の如く時代の要求に應じては規模を擴張し時勢の趨向に従うては施設を改めしこと一にして足らずと雖も常に聖旨を奉體して教育の要旨を定め又往年拜戴せる御歌を奉じて校歌となし之を教學の鑑として修養の心を昭らし以て他日人の師表母儀たるの道を授けて終始一貫渝ることなく其の業日に就り月に將みて數千の卒業生は出でて所在全國に亘りて力を皇國の文教に盡し之が隆運に貢献するを努めしに圖らざりき一昨年震災は校舎設備の全部を擧げて之を烏有に歸せしめんとは 過去を顧みて今又更に將來の大計を立つべきの時復舊の業漸く其の緒に就き之が完成を急務とするのみならず世運の進歩は女子教育の前途に一日の安處を容さず益々振興を促すこと切なるものあり 此の間に處する任務亦重しと云ふべく日夕省思して匪躬只その足らざるを惧る 而かも本校の今日ある一に昭代の賜にして君國の恩澤によること深きを思ひ忠愛の至誠を捧げて益々教育の精神を振作せんとす 是の心を以て此の事に當り學校相率ゐて夙夜に淬礪し本校の隆昌を致して國運の伸暢に寄與し以て懿旨に副ひ奉らんことを期す 謹んで之を式辭となす

大正十四年十一月二十九日

東京女子高等師範學校長

茨木清次郎